

# 地域社会との密接な連携を築こう

～ 地域の「力になりたい」と、PTAの「力を借りたい」をつなぐ ～

みよし市立天王小学校PTA

## 1 学区及び学校の概要

みよし市のほぼ中ほどに位置する本校の学区には、何世代も前からの古い地区、50年ほど前から住宅地となった地区、ここ10年の間に雑木林や農地が住宅地となった地区がある。古くからの地区を中心にお祭りや地区の行事も盛んに行われ、学校の近くには、ため池として約60年前に造成された三好池や三好公園などがある。また、学区内には大型商業施設や小型の商店もある。

令和4年度に開校50年を迎える天王小学校は、現在児童数579名。外国籍児童も増加傾向にあるなど、多様性に富んだ学校である。

## 2 研究のねらい

前述のように、さまざまな背景の住民が集う地区であるが、保護者の中には、本校の卒業生も多く、学校に協力的である。また、地域の方々には「学校のため、子どもたちのために力になりたい」という思いが強く、児童の登下校時の見守りや、学校行事の準備、PTA主催の行事の運営など、地域の方の積極的な参加が見られる。

こうした、地域の方や保護者の、「学校のために」という思いと、学校やPTAの「力を貸していただきたい」という願いをつなぐことによりPTA活動をさらに活性化し、子どもたちの学校生活をより潤いのあるものにしたと考えた。

## 3 研究の仮説

PTAの必要とすることを地域に知らせたり、地域社会のもつ力を知ったりすることにより、PTAと地域が手を携えて活動する機会が増え、地域社会とのより密接な連携が築かれるであろう。

## 4 研究の方法

昨年度募集した「天王小地域ボランティア」の情報や地区の回覧板を用いて、PTA側のニーズを地域に伝える。また「天王小地域ボランティア」の募集を引き続き行い、地域のもつ力を発掘する。こうして募集した地域の方と連携してPTA活動を進める。

## 5 研究の実践

### (1) 校内クリーン活動

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年行われている家庭教育学級が中止となった。PTAの常任委員会の一つである、家庭教育学級委員会は、「コロナのためにできなくなったことがある。しかし、コロナのためにしなければならなくなったこともあるはずだ」

と考えた。委員会で話し合っただけで出た案が「校内クリーン活動」である。児童下校後、教職員は、トイレ掃除、校舎等の消毒作業に追われている。それを知った委員が、少しでも学校のため、子



【机の消毒活動を行う参加者】

どもたちのためにと、トイレ掃除や消毒に協力してくださる保護者を募集した。不特定多数が学校に入るのを避けるために対象を保護者に限定した。6月、7月の児童下校後週1回、計6回行ったところ、毎回、10数人の参加者があった。参加者は、教職員やPTA役員と一緒に校内の消毒を行った。参加者からは「先生と話をしながら活動でき、学校でのコロナ対策も分かってよかった」との声が聞かれた。教職員からも「学校でやっていることが少しでも分かっていただけでうれしい」との感想があった。

## （２）部活動の指導

昨年度募集した地域ボランティアには、「金管バンド部の指導ができる」と、登録した方がいる。6月下旬から行うことになった部活動の支援に来ていただくことを、初めは躊躇していたが、思い切って声をかけたところ、快諾していただいだけ、部活動の時間に何度も足を運んでくださった。学生時代はホルンを専門に勉強し、今でも吹奏楽の団体に活動している方の指導は、たいへんわかりやすく、児童にも好評だった。



【ホルンの指導をするボランティア】

## （３）米作り

地域の方から水田を借りて、毎年5年生が米作りの体験を行っている。これまでは毎年6月に、地域の農家の方の指導の下、児童が田植えを行っていた。しかし、今年は、密を避けるため、児童による田植えができなかった。いつも指導をしてくださっていた農家の方が、機械で田植えをし、児童は、育っていく稲を観察した。稲刈りは、感染症対策をしたうえで、児童の手で行った。稲刈りには、地域の農家の方のほか、保護者ボランティアも多数参加した。



【稲刈りを手伝う保護者】

## （４）資源回収

例年、資源回収についての地域への案内は、地区の回覧板で行っている。しかし、今年度は、感染拡大防止のため、地区の回覧板を使うことができない。そこで、児童に5枚ずつ地域への案内文書を渡し、近所の人に投函または持参させることにした。地区の方々には、回収物を回収場所に運んでくださったり、家の前に出したりして協力してくださった。

## 6 研究の考察

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため活動の多くが中止、制限を余儀なくされた。その中で、できることを模索しながらの活動となった。PTAから地域への情報の発信はいくらかできたものの、地域からの情報の収集が難しかった。

## 7 成果と今後の課題

活動の呼びかけを例年のようにできないところもあったが、その中でできる方法をとったことで、PTAからの発信はでき、いくらかの協力は得られた。また、一緒に活動していただくことにより、学校やPTAのことを知っていただく機会にもなった。

しかし、地域の声を引き上げることは、従来の方法では難しかった。今後、ウィズコロナの時代にあって、PTAと地域との間で情報の行き来ができる方法を見つけていく必要がある。